

# Together

経営に関する難題解決の事例や手法、  
働く人々の思いや業界最新情報を共有する月刊紙  
2014.8 No.124  
知識 [Knowledge] と行動 [Behavior] で問題解決 [Solution] を支援

KBSは「HANDS ON型」で、観光・サービス業界を支援します。<http://www.kbsbiz.com> E-Mail : info@kbsbiz.com

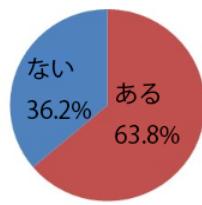
こんにちは。東日本営業部 野中です。

みなさんは急に思い立って旅にでかけた、そんな経験はありますか？

フォートラベルの調査によると、「急に旅に出たくなったことがある」と回答した人は63.8%、きっかけは「日常のストレス」が多数。疲れたときこそ旅してパワーチャージしたいと思う方も増えてきているようです。また男女別で見ると、「ある」と回答したのは男性の59.4%、女性は66.9%となり、女性の方がより突発的に旅行したくなる傾向にあるとのデータもでているようです。（左図=出典：「旅行のクチコミサイト フォートラベル」）



日常で「旅に出よう」と  
急に思い立ったことはありますか？



Web予約やLCCなど手軽に旅行手配が出来るようになったことも要因のひとつと考えられますが、思い立った時に気ままに出かける、また旅先での過ごし方も「その場の気分で決める」といった自由な旅行スタイルを好む傾向もうかがえます。観光事業者の皆様にとって、各種対応力が求められやりがいのある昨今になっているかと思いますが、ありのままの魅力をありのままに提供すること。観光素材をさらに磨きあげ加工して（アレンジして）提供する事。どちらも欠かせない今だからこそ、観光商品の研究や開発も必要になってくるのではないかでしょうか。

株式会社KBS創研 執行役員 東日本営業部長兼広報室長 野中瑠美子

## 観光シンポジウム 2014 のお知らせ（京都・東京で開催） 「サービス業に研究開発は必要か？～観光業の場合～（仮題）」

昨年、KBS創研×京都大学経営管理大学院との共催で行った「観光シンポジウム」を今年も開催致します。今年、テーマとして取り上げるのは「サービス業における研究開発とは？」です。

観光商品のコモディティ化が進み独自性が發揮できず厳しい経営に直面する観光事業者が増える一方、圧倒的な企画力、サービス力で多くの観光客の支持を集めている施設が存在しています。今後我が国が観光立国として発展、成長していくためには後者の事業者を増やしていく必要があることは論を待ちません。

サービスや観光商品の魅力を高める方策はどのようなことか？付加価値の源泉となる研究開発を観光業も行うべきか？観光客から支持を得ている施設は商品の魅力を向上させるべくどのような取り組みを行っているのかを紐解きながら、その是非、あり方を各業界から魅力あふれるパネリストの方々を迎�議論していきます。会場でぜひ皆様もご一緒に参加してみませんか？



株式会社 KBS 創研  
代表取締役  
小泉寿宏

京都大学  
経営管理大学院  
特定准教授  
前川佳一氏



昨年の観光シンポジウム 2013 の様子はこちらから。  
「経営コンサルタントは必要か？～観光業の場合～」  
<http://www.kbsbiz.com/taidan/archives/7>

### 【観光シンポジウム 2014 概要】

#### <テーマ>

「サービス業に研究開発は必要か？～観光業の場合～（仮題）」

#### <京都会場>

◆日時：2014年9月25日（木）18:00～20:00

◆場所：京都大学吉田キャンパス内教室（予定）

[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r\\_y.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_y.htm)

◆定員：約100名

#### <東京会場>

◆日時：2014年9月29日（月）17:00～19:00（予定）

◆場所：京都大学東京オフィス

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/about/access.htm>

◆定員：約60名

#### <パネリスト>

観光業界だけに留まらず、各業界から研究開発に携わるパネリストをお迎えします。（後日正式広報予定）

#### <お申込み・お問い合わせ>

◆KBS創研広報室担当：野中

TEL：03-6453-9088(平日10:00～18:00) E-mail: [nonaka@kbsbiz.com](mailto:nonaka@kbsbiz.com)

◆参加費 無料、先着順受付

定員になり次第締め切りとさせて頂きます。ご了承ください。  
(後日正式に広報をさせて頂きます)

## 研究開発事例「海中での健康増進プログラム・ダイビングセラピー」 ～沖縄の事例紹介～

### ● 「海中運動や海中癒し」を目的とした商品とサービスの開発も

観光業界における研究開発（商品開発）の取組みに関して、沖縄でのある事例をご紹介したいと思います。

琉球大学大学院観光科学研究科とマリンコムズ琉球によるダイビングセラピー共同研究開発の事例です。荒川雅志教授によるダイビングの健康癒し効果の測定や海浜環境での健康増進プログラムの開発と、株式会社マリンコムズ琉球が開発した水中可視光通信機器を融合させ、「海中癒しや瞑想」を目的とした、ダイビングの価値を180度転換する画期的な商品開発とサービスメニューの確立に取り組んでいます。

水中会話を可能とする機器を用いることでインストラクターの的確な指示も随時受けることができ、水中でも質の高い安全なトレーニングを受けることができる可能性があります。また、水中瞑想などの体験によるリラックス効果の検証（心身状態のモニタリング）をしながら水中での体験プログラム等の開発（付加価値の創出）を取り組んでいます。実際に被験者として体験してみましたが、ダイビングをより楽しむためのツールとしてだけではなく、海（水中）を利用した健康増進プログラムの開発やウェルネスツーリズム（高齢者や障がいの方でも体験できる旅行等）のコンテンツ開発にも繋がる画期的な研究開発だと感じました。

### ● 水中で会話を楽しめる「水中可視光通信機器」とは

「i-MAJUN（イマジュン）」は、LED型水中ライトの光を使って会話を楽しむことのできる新しいダイビング器材です。

ダイバーが発した声をLED型水中ライトに接続されたマイクで拾い、声を水中ライトの光波に乗せて相手ダイバーへ送ります。可視光を受信したダイバーは、受信機で受けた光波から音声を取り出し骨伝導スピーカーにより声を認識します。水中では耳の鼓膜が水により振動しないため頭蓋骨で声を拾うのです。

### ● 研究開発と最新の観光商品についてはシンポジウムでもお伝えします

このような、既存の観光資源と科学とのコラボレーションによって、新たな観光商品（体験プログラム等）が生み出されていくことは、今後の観光業界にとって非常に楽しみなことであり、まさに研究開発の面白さともいえるのではないかでしょうか。

この続きはシンポジウムの会場でまたお伝えしたいと思っています。

※国立大学法人琉球大学大学院観光科学研究科ヘルス・ツーリズム研究センター

<http://health-tourism.tn.u-ryukyu.ac.jp/category/project/research>

※株式会社マリンコムズ琉球 <http://www.mcrvlc.jp/>



インストラクターの指示を受けながら、水中での筋肉弛緩運動



自身の呼吸音のみが聞こえる、水中独特の静寂感の中で瞑想



筋肉弛緩運動や瞑想時の心拍数等の数値を測定し、心身に与えるリラックス効果を検証



検証実験、被験者体験の様子

編  
集  
後  
記

今年も観光シンポジウムの季節がやってきました。昨年はコンサルタントが「経営コンサルタントは必要か?」というテーマで語り合うという内容に、会場を巻き込んでの刺激的なシンポジウムとなりました。さて、今年はどんな刺激がもたらされるのでしょうか。「観光業における研究開発」、しかも京都・東京の2会場で開催。これまた絶対に見逃せませんね。(増田)

### 株式会社 KBS創研

本社・西日本営業部：〒661-0003 兵庫県尼崎市富松町1-9-15-103 TEL:06-6423-5561/ FAX:06-6423-5571  
東日本営業部：〒103-0027 東京都中央区日本橋1-2-10 東洋ビル3階 TEL:03-6453-9088/ FAX:03-6453-9089  
<関連会社>ネクストサポート株式会社（事業再生コンサルティング）

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-6-20 マスイビル6階 TEL:06-6282-7226/ FAX:06-4707-3855

特定非営利活動法人 ふるさと応援隊（着地型観光支援事業）

〒604-8151 京都市中京区蛸薬師通烏丸西入橋弁慶町222番地京都イノベーションオフィス内 TEL:070-6928-0602

- 代表取締役：小泉寿宏
- 事業内容：観光・サービス業の経営支援
- 設立：2004年4月
- 地域オフィス：関西・東京